

## POTEKAで気温逆転層を新発見！

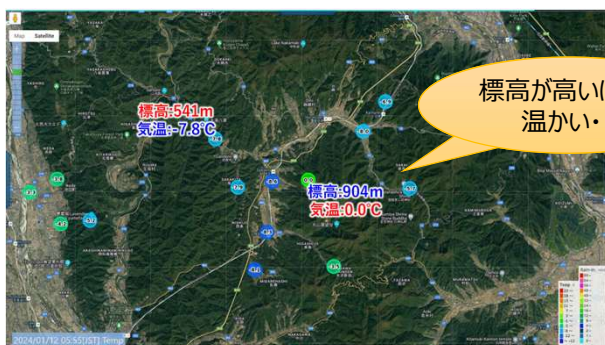
VOL.7[2024.2]

暖冬傾向の続く2024年の冬ですが、時折、強い寒気も流れ込み、冬本番を感じる日も増えてきました。そのような冬の晴れた朝に、一般的な気象常識とは異なる気温層分布が生じることがあるのを、ご存知でしょうか？今回は、これまでにPOTEKAで観測された「気温逆転層」という気象現象の事例をいくつかご紹介したいと思います。

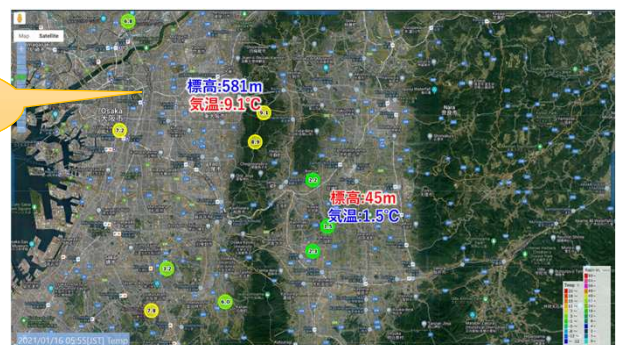
天気予報などで、“明日は冬型気圧配置が緩み、朝は放射冷却が強まって冷え込む見込みです。”などといったことを耳にしたことはないでしょうか？放射冷却の時、私たちが住む地表付近は確かに冷え込みます。そして、気象の常識として、上方に行けば行くほど気温が下がることは有名です。この常識に従えば、放射冷却の時は、上空はもっと冷え込んでいると想像してしまうかもしれません。しかし、実際には違うこともよくあります。気象学的には「気温逆転層」と呼ばれる現象で、上方に行けば行くほど気温が上昇する現象です。その土地によって、山に囲まれた盆地では「冷気湖現象」、山の斜面では「斜面温暖帯」などとも呼ばれ、その気温逆転効果が、地形性によってさらに強まることもあります。

この気温逆転層は、アメダス観測点の筑波山(標高868m ※現在は観測廃止)や生駒山(標高626m)の周辺ではよく知られている現象でしたが、POTEKAが全国拡販されたことで、ほかにも各地で気温逆転層が生じていることが観測されています。特に、標高1000mを超えるPOTEKA地点でも気温逆転層が確認されたことは、非情に驚くべきことでした。

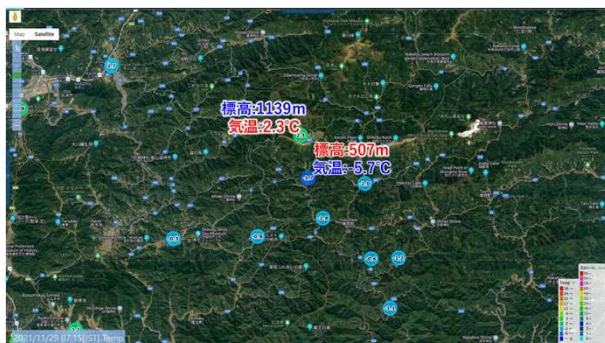
時折、POTEKAご利用のお客様からもお問い合わせいただくことがあるこの現象。今回は、これまでにPOTEKAで観測された気温逆転層事例をいくつか紹介したいと思います。



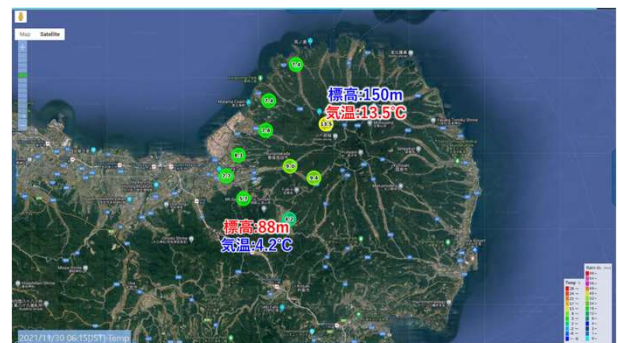
2024年1月12日 長野県筑北村周辺  
標高541m/気温-7.8°C ⇔ 標高904m/気温0.0°C



2021年1月16日 奈良県生駒市/広陵町周辺  
標高581m/気温9.1°C ⇔ 標高45m/気温1.5°C



2021年11月29日 愛知県西予市/高知県梼原町周辺  
標高1139m/気温2.3°C ⇔ 標高507m/気温-5.7°C



2021年11月30日 大分県豊後高田市周辺  
標高88m/気温4.2°C ⇔ 標高150m/気温13.5°C

これも、POTEKAの「稠密観測」ならではの興味深いデータと言えますね！